

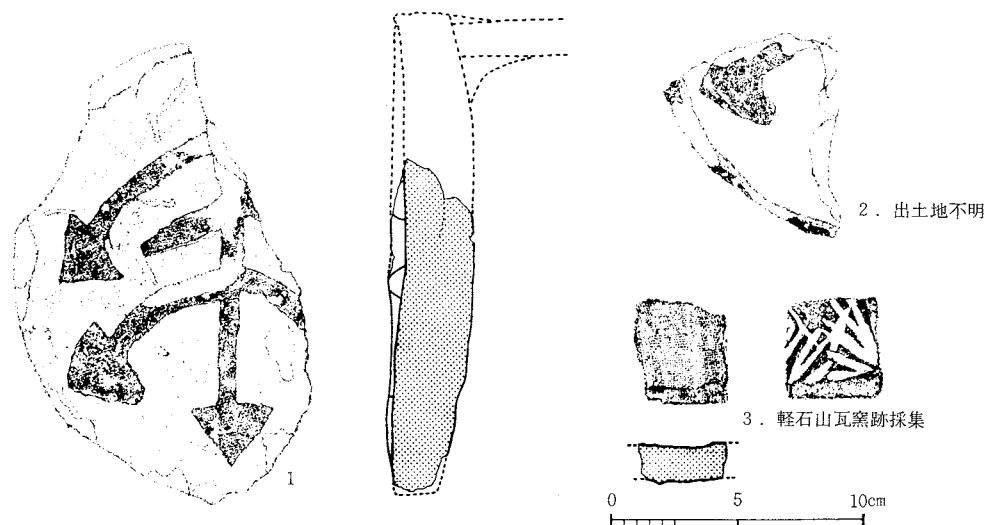
資料紹介

合戦原瓦窯跡採集の樹枝文軒丸瓦

遠 藤 智 一

昭和30(1955)年12月、筆者は岩出山町周辺地域の遺跡の分布調査をしていたが、名生城跡である古川市大崎字名生小館の館野氏宅裏の畠にある柿の木の根元に樹枝文軒丸瓦を含む10片ほどの瓦片が落ちているのを見つけ、館野氏の許可を得て採集した。

昭和37(1962)年頃、東北大学文学部の伊東信雄教授にその樹枝文軒丸瓦を見て頂いたところ、「これはどこかでみたことのある瓦だ。昭和初期に内藤政恒教授が撮影した岩出山町細峰出土の瓦に酷似しているように思うが、確かに名生城跡から出土したのか」と念を押された。そこで、このことを確認するため、再び名生の館野氏宅を訪問し、館野みの氏(故人、岩出山町南沢字中里出身)から話を聞いた。同氏によるとこの瓦は、昭和の初め頃に細峰部落の区長であった佐々木双太郎氏(故人、みの氏の実兄)が名生城跡を訪問したある著名人(皇族か)に見せようと持参したもので、そのまま館野氏宅におかれ、後に柿の木の根元に捨てられたということであった。一方、東北帝国大学の内藤政恒教授が撮影した写真は佐々木茂楨氏が複写を所蔵しており、同氏のご好意により今回の合戦原瓦窯跡調査の際に筆者の持つ実物との照合を行ったところ、やはり同一の瓦であることが判明した。ま



第27図 合戦原瓦窯跡付近採集の瓦・遠藤智一氏所蔵

た、その写真には内藤教授の記した以下の注記があった。

「・細峰出土ノ瓦(南沢附近)
・陸前国玉造郡岩出山町字細峰五十五番地附近
・暗褐色ヲ呈シ、質ハ硬キ方ナリ。
筒部ノ附着シオル附近ノ形状ヨリシテ、上図ノ如キ位置ナリシト想ハル。
厚サ約八分ナリ。
・昭和九年十二月十一日撮ス
・千葉林治氏蔵

したがって、この樹枝文軒丸瓦が細峰55番地に所在する合戦原瓦窯跡群で採集されたことは間違いない。そして、昭和9(1934)年には千葉氏が保管しており(この時点で内藤氏が撮影)、それを佐々木氏が譲り受けたが、名生の館野氏宅裏に捨てられてしまい、筆者により再び採集されるという経緯を経たということになる。なお、名生城跡で筆者がこの瓦と共に採集した瓦片の中にはもう1点樹枝文軒丸瓦の小破片が含まれており(図版17-1)、やはり細峰から採集された可能性もあるが、確認できない。